

基金を活用した助成事業のご紹介

協働助成事業(テーマ希望型)

アサヒビール株式会社からの寄付による事業 《うまい!を明日へ!『山形の宝』継承活動支援事業》

1 長瀬猪子踊り継保存事業

(1)事業実施団体 長瀬猪子踊り保存会(東根市)

(2)事業内容

東根市長瀬地区に昔から伝わる猪子踊りは、市の無形民俗文化財に指定されていますが、その継承には、後継者の育成が欠かせません。

過去には、後継者不足で活動を中断した経緯があり、復活に大変苦労したことから、積極的に後継者を発掘・育成し、地域に伝わる宝である伝統文化を継承していく活動を行っています。



2 隠明寺風製作指導者育成及び技術伝承事業

(1)事業実施団体 隠明寺風保存会(新庄市)

(2)事業内容

隠明寺風は、版木が県の有形民俗文化財に指定されていますが、一部の市民にしかその存在は知られていません。本格的な後継者の育成も行ってこなかったため、製作指導者は2名となっています。

この事業では、市民を対象に、隠明寺風の作り方の基礎を指導する教室を開催し、指導者の育成を図るとともに、11月21日に「新庄風フェスティバル2010」を開催し、隠明寺風の披露と伝統文化の啓発を行いました。



=この他の助成事業=

- 子どもたちへの民話を通しての「新庄の宝」継承活動
／新庄民話の会(新庄市)
- 山形の宝「在来作物」未来へのバトンタッチ作戦
～映画「よみがえりのレシピ」製作運動サポートを通じて～
／(特活)山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 下小松古墳群の里山環境整備及び支援事業
／下小松古墳群を守る会(川西町)
- 次代に引き継ごう、やまがた自然の宝
／(特活)ネイチャーアカデミーもがみ(鮎川村)
- 大山いざや巻の街頭公演を通じた地域文化継承事業
／大山いざや巻保存会(鶴岡市)
- 草木塔と美しい森・巨木発見隊(中津川・南陽編)
／(特活)美しいやまがた森林活動支援センター(南陽市)
- 「ヤマガタ文学遺産」ガイドブック作成事業
／ぶらっとほーむ(山形市)

メッセージ

アサヒビール株式会社
山形支社長 磯山 智さん

当社は、主力商品「アサヒスーパードライ」の売上げの一部を、都道府県毎に設定した自然や環境、文化財等の保護・保全活動に役立てる社会貢献企画「うまい!を明日へ!」プロジェクトを全国キャンペーンとして展開しました。

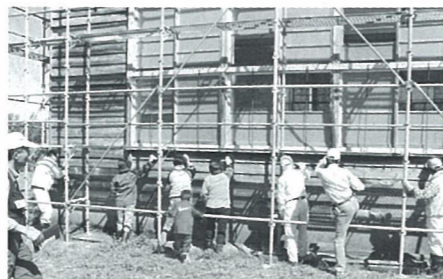
山形県が推進している郷土が誇る自然や文化など地域の宝を保全・活用して「山形の宝」に育成する取組みに賛同し、やまがた社会貢献基金に寄付しました。山形県の豊かな自然や文化を保全し活用する活動を支援します。



(財)民間都市開発推進機構からの拠出による事業 《人を活かす交流まちづくり施設整備支援事業》

やまがた社会貢献基金では、平成22年度から5年間の計画で、地域資源を活かした交流によるまちづくりを支援します。初年度の今年度は、飯豊町の廃校を活用し草木塔文化資料館などとして交流拠点を整備する(森と人をつなぐ癒しの空間づくり)事業や、空き店舗を改修し曜日毎に料理人が替わるランチ店を整備するものなど、次の5事業が採択されました。

- 農業・農村体感交流施設(トライA&B)整備事業
／山形県新規就農者ネットワーク(河北町)
- 森と人をつなぐ癒しの空間づくり事業
／(特活)美しいやまがた森林活動支援センター(南陽市)
- 中心商店街の空き店舗を利用した人替わりランチ店
／(特活)アンプ(新庄市)
- 「深山活き生き行きたくなる郷」をめざして
／深山地域協議会(白鷹町)
- 下小松古墳群の交流施設整備事業
／下小松古墳を守る会(川西町)



ボランティアと会員の手による塗装作業で廃校舎が癒しの空間によみがえる

協働助成事業(一般型)

今年度の協働助成事業(一般型)では、NPO団体から15事業の企画提案をいただき、公開プレゼンテーション審査を経て、10事業が助成を受け実施されています。

1 子ども食体験事業

県が課題設定した「食育県民運動の推進」について、企画提案いただいた事業です。

(1)事業実施団体 (特活)食育ママ(米沢市)

(2)事業内容

食体験教室の開催を通じ、子どもたちが自分で料理が作れた達成感を味わうことにより自信を持ち、食を通じた「生きる力」を身につけていきます。また、地域の食材や米粉等を利用し、地元食材のおいしさ、食べ方を考慮した活動を行っています。



実施団体より

加藤 弥栄子さん

私たちは、食とおした自立=生きる力を育てることを柱としています。特に成長期の子ども達には、調理という本物の食体験を重視し、「おいしい・楽しい・自分でできた」の積み重ねから「どこに行っても生きていける!」と自分に自信がもてるよう内容を設定しています。

今後も多くの子どもたちが参加し、様々な食体験ができるよう教育機関や地域との連携を図りながら、今回の事業で得たノウハウ等を次の事業に活かしていきたいと考えています。

県担当者から一言

県では食育の推進のため、食育推進計画を定め、食への感謝や、食を気づかうことなどを柱に農業体験活動の充実のための支援や民間団体が行う食育活動への支援を行っています。

今回、子どもを対象にした「子ども食体験事業」は、子どもに「一人でできた」という自信と、親に「一人でもできるんだ」という感動を与えることができ、親子ともども大変有意義なものがあると思います。また、会場でもお話をいただきましたが、子どもたちの10年後、20年後のことを思い、是非家庭でも「体験」を積み重ねていただきたいです。このような取組みが、各地で行われ食育活動の輪が広がっていくことを期待します。(農林水産部 新農業推進課)

トピック②

地域課題を話し合っ “協働の基盤づくり” を!

全国でNPO団体への支援活動を行っている川北秀人氏は、「協働とは、異なる強みを持った存在が力を出し合うことで、それまでできなかった価値(相乗効果)を生むことだ。つまり、自分たちが行って来た、あるいは始めたいと考えていたことに、行政に協力してもらうことではない。」(「NPOマネジメント」第69号)と語っています。力を出し合うためには、課題をどのように認識しているのか、どのような解決を図ろうとするのか、といったことなどお互いをよく知り、基礎を共有することが重要です。このため、お互いの事業や活動などを紹介しながら地域課題を話し合ってみようという試みが、先に開催された「NPO推進フォーラム」の「お見合い会」です。この会は、やまがた社会貢献基金協働助成事業への応募に向けて引き続き開催していく予定です。

また、同様の取組みを、最上地域ではNPOもがみが「めざせ!われらの活動のパワーアップ」と題して開催しているほか、各地域のNPO団体等が開催を計画しています。皆様の地域で開催される時は、ぜひ一度参加してみたいかがでしょうか。

■開催予定は「ボランティア&NPO情報ページ」でご確認ください。<http://ipage.yamagata-npo-volunteer.net/>

